

1998年出土の木簡



(三津浜・松山北部)

愛媛・平田七反地遺跡

1 所在地 愛媛県松山市平田町地内

2 調査期間 一九九七年(平9)四月～一九九八年三月

3 発掘機関 財愛媛県埋蔵文化財調査センター

4 調査担当者 善永光一・野本 健

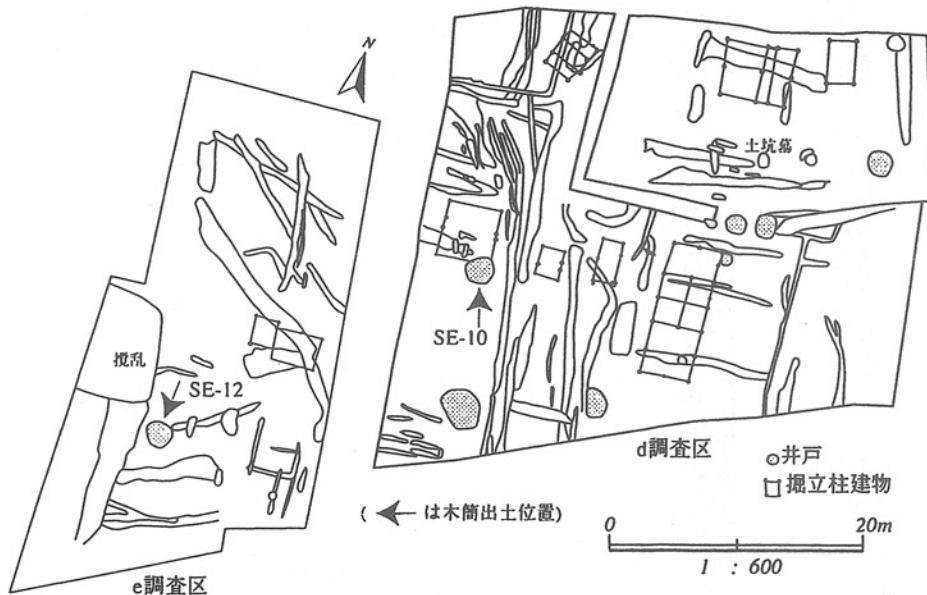
5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代終末期～古墳時代後期、中世(一二世紀)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

平田七反地遺跡は松山市の北辺、瀬戸内海に近い標高8mの沖積地上に位置する。現在は大内谷と呼ばれる谷の谷口集落である。遺跡は背後の約40mの小起伏丘陵と、前方西側の堀江地溝帯と呼ばれる旧石手川によって形成された沖積低地に囲まれている。

遺跡のある和氣・堀江地



遺構配置図(一部古墳時代の遺構を含む)

区は、縄文時代晩期を中心とした船ヶ谷遺跡・大渕遺跡・弥生時代

前期の三光遺跡・堀江遺跡など、古くから生活痕跡の残るところで
ある。古代においては、和氣郡に属するようになる。中世には、河
野氏の家臣である大内氏の支配下にあり、平田七反地遺跡の北側丘
陵上には大内氏の居城である大内城が存在する。

今回、一般国道一九六号松山・北条バイパス建設工事に伴い、記
録保存を目的とした発掘調査を、一九九六年四月から一九九八年三
月まで実施した。調査はb・c・eの調査区を設定して行ない、総面積
は七九六〇m²である。調査の結果、弥生時代終末期～古墳時代後期
までの集落、中世（一二世紀～一六世紀）の集落が検出され、長期間
営まれた生活痕跡を確認することができた。特に中世の集落からは、
溝に囲まれた多数の掘立柱建物や井戸が検出された。

木簡は一九九七年度の調査区であるd・e区の二ヵ所の井戸より
一点ずつ検出した。d区の井戸一〇は一辺七五cmの方形縦板組横桟
型の井戸で、掘形径二・三mを測る。井筒は径四〇cm深さ二五cmの
曲物である。井戸内より一三世紀初頭の瓦器碗が出土している。
e区の井戸一二は石組みの井戸で、掘形径一・〇m深さ一・一m
を測り、井筒は無く、石のみで組まれたものである。井戸の裏込め
から一五世紀後半の備前焼の甕が出土している。

8 木簡の釈文・内容

井戸一〇

(1) 「□□」

井戸一一

(2) 「□ 永□七年 □
□□□□□□□□」

302×(38)×5 081

(1)は短冊型の木簡である。左右両辺は割れている。左上隅に二文
字認められるが、判読はできない。右上に木の皮による綴じ紐が付
いている。材質は檜。

(2)は木簡の左側が欠損している。一行目の三文字目は「賣」だが、
これは文字の旁部分のみが残っていると考えられる。材質は習檜
(あすなろ)である。

(西川真美)



(1)



(2)

302×(38)×5 081